

『新大牟田市史』「三池炭鉱近現代史編」 正誤表(R5.1.30追加分)

No	頁	行	誤	正
1	23 (目次)	第4章 第5節 第2項	三系列	3系列
2	27 (目次)	第IV部 第1章 第2節	戦時体制へ—石炭の国家統制	戦時体制へ—石炭の国家統制—
3	28 (目次)	第4章	第4章 坑夫雇用状況の推移	第4章 雇用状況の推移
4	30 (目次)	第V部 第1章 第1節	(文章追加 第2項 第3項) 第1項の下へ	第2項 三池炭鉱の空襲被害 第3項 海外資産の喪失
5	32 (目次)	第5章 第3節	原価の推移	原価勘定の推移
6	32 (目次)	第5章 第5節	—三井石炭鉱業会社の設立	—三井石炭鉱業会社の設立—
7	38	下から18	ム—セ—	ム—セ
8	63	5	(『三池集治・仮留監統計表』)	(『三池集治監・仮留監統計表』)
9	72	下から7	0.198円、0.129円、0.099円	0.129円、0.099円、0.091円
10	72	下から7	33%、49%、57%	50%、64%、62%
11	75	41)の1行	(『三井文庫論叢』	(『三井文庫論叢』第10号
12	76	(注)2.	県別囚人員数不評	県別囚人員数不詳
13	102	2	官営三池炭鉱三井物産	官営三池炭鉱の三井物産
14	109	下から15～16	電信料などのほかに、多くの	電信料など、多くの
15	110	下から1	四月工部●達ノ旨	四月工部卿達ノ旨
16	116	3	揚水器械、扇風器械、	揚水器、扇風機、
17	116	5	揚水器械の	揚水器の
18	124	下から14 下から12	三系列	3系列
19	165	下から17	同07年	同09年
20	168	2)の20行	1218頁、	128頁、
21	169	36)の7行	語って曰く、	語って曰く、
22	191	下から16	消費量とはけた違い	消費量はけた違い
23	196	2)の5～6行	「三大工事」が、	『三大工事』が、
24	196	2)の9行	本年採掘石炭	本年採掘石炭
25	216	下から1	飯米代が8割以上	飯米代が食費小計の8割以上
26	223	下から17～18	何年何月日 本人何誰 年 齡	何年何月日 本人何誰 年 齡
27	224	7～8	何県何郡何村何番地 族籍 明治何年何月何日 何ノ誰	何県何郡何村何番地 族籍 何ノ誰 明治何年何月何日
28	224	10～11	何県何郡何村何番地 族籍 何ノ誰	何県何郡何村何番地 族籍 何ノ誰
29	229	下から13	若已ム	若已ム
30	245	1	(4)二次的ノ労務管理	(4)「二次的ノ労務管理」
31	248	9)の14行	相成候得共此地	相成候得共此他
32	248	14)	其の一、238頁。	其の一(三井経営時代)、238頁。
33	249	63)の3行	特種な事例で	特殊な事例で
34	301	下から18	(1人1日)。	(1人1日)
35	303	14	属しており、	属している場合、
36	311	下から11	ら同1910年度	ら1910年度
37	320	第2-6-5表 下から7	起業費焼却金	起業費償却金
38	350	15	することとなり、	することとなり、
39	351	21	そのうえに、1900年代	また、1900年代
40	357	9	これよって大牟田	これよって大牟田
41	363	30)の12～13行	大正二年二月ヨリ	大正二年二月より
42	375	3	区分シ一定数	区分シ一定数 (一は漢数字)
43	392	9	須叟モ	須臾モ
44	392	19	賤民	賤民
45	395	14	第四条、第二条ノ積立金	第四条、第三条ノ積立金
46	419	5)の12行	当らしめたもの」と	当らしめたもの」(9頁)と

No	頁	行	誤	正
47	419	20)の1行	労働員会	労働委員会
48	419	20)の5行	従来余が一工場毎	従来余が一工場毎 (一は漢数字)
49	419	20)の7行	元来に本の	元来日本の
50	419	20)の39行 20)の39行	医院	委員
51	419	23)の3行	土産に在るのである。」	土産に在るのである。(カギカッコとる)
52	420	23)の16行	153頁)したがって	153頁)。したがって
53	420	23)の17行	ヨーロッパ労働員会	ヨーロッパの労働員会
54	420	26)の2行	(注)42	(注)20
55	420	36)の2行	大蔵	大倉
56	420	53)の6行	参照)	参照)。
57	420	63)の2行	採炭夫以外追稼働者	採炭夫以外の稼働者
58	458	12)の4行	基礎課程	史的分析
59	458	13)の3行	募集須知」のことである。	募集須知」(第Ⅱ部第3章第2節参照)のことである。
60	458	13)の8行	者も少なくともなかったと	者も少なくなかったと
61	506	20	1924年5～	1924年6～
62	508	11	進出旺盛 ¹⁷⁰⁾ 」	進出旺盛 ¹⁷¹⁾ 」
63	511	136)の4行	1936年』	1936年
64	511	140)の1行	44頁。長廣利崇	44頁。以下、参照。長廣利崇
65	511	140)の3行	島西智輝、2011年。	島西智輝『日本石炭産業の戦後史』慶応義塾大学出版会、2011年。
66	537	下から10	パイプは	パイプは (1字下げる)
67	539	3	1913～14年度	1913～15年度
68	542	7	て安米制度を強化し、また三池共愛購買組合	て売勘場における安米制度を強化し、またその後1923年には三池共愛購買組合
69	559	11)の24行	36～37頁。)	36～37頁)
70	592	1	戦時体制へ—石炭の国家統制	戦時体制へ—石炭の国家統制—
71	597	7)の3～4行	1979年、49～50頁、	1979年)49～50頁。
72	616	5	在り ¹⁰⁶⁾ 」	在り ¹⁰⁴⁾ 」
73	617	下から9行	ガス発生炭炉用	ガス発生炉用
74	622	12	施策としては	施策としては
75	633	下から10	道ヲシタ	ヲシタ
76	644	下から15	壁面ニ払	壁面ニ払 (ニはカタカナ)
77	657	15	凹凸段差	凸凹や段差
78	657	下から4	バラ	えぶ
79	676	1	第4章 坑夫雇用状況の推移	第4章 雇用状況の推移
80	692	10	展開されていた。	展開されていた。
81	696	1	林常務の	林常務ノ
82	696	2	愛国行進曲を	愛国行進曲ヲ
83	704	9)の3行	第7巻、2865頁	2865頁
84	704	17)の1行	沿革史』	『沿革史』
85	704	18)の1行	18)、20)その	18)その
86	741	下から5	外死亡	害死亡
87	759	17	第3点は、	第4点は、
88	769	11)の4行	1973年)した。422頁。	1973年、422頁。)した。
89	769	21)の2行	1973年。	1973年、408頁。
90	769	21)の2～3行	以下『筑豊石炭鉱業史年表』と略。	(削除)
91	769	25)の2行	614～615、	614～615頁、
92	771	55)の1行	李貴池	「李貴池
93	820	14	記している ²⁹⁾ 。	記している ³⁰⁾ 。

【以下附録DVD所収】

94	852	下から2	さしづめ	さしづめ
----	-----	------	------	------

No	頁	行	誤	正
95	853	10	(1)三池炭鉱の空襲被害	第2項 三池炭鉱の空襲被害 (2行目の第1項と同じ様式)
96	853	21	(2)海外資産の喪失	第3項 海外資産の喪失 (2行目の第1項と同じ様式)
97	869	11)の8行	『三井事業史 本	『三井事業史』本
98	869	14)の6行	炭鉱兼営型鉱業企業	炭鉱兼営型金属鉱業企業
99	897	16	職員坑外女性労働、	職員坑外女性、
100	899	2	1940年	1949年
101	905	5	組合専従従者の	組合専従者の
102	931	下から2	三池炭鉱主婦会	三池主婦会
103	955	下から7	実に351万トン	実に251万トン
104	966	12	指数では、1952年度に	指数では、1951年度130、1952年度に
105	967	4～5	検討した文献は	検討した研究は
106	969	20	が借入金合計の70億7300万円	が70億7300万円
107	974	9	といわれる。『100年史原稿』	といわれる。第3章にも掲げたが、『100年史原稿』
108	993	下から10	柱 ¹⁵⁾ 」	柱 ¹⁶⁾ 」
109	1023	下から13	整理を整理しておこう。	整理しておこう。
110	1071	1 表題	第3節 原価の推移	第3節 原価勘定の推移
111	1079	下から16	1958～1963年度	1958年度
112	1089	1 表題	—三井石炭鉱業会社の設立	—三井石炭鉱業会社の設立—